

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【泰平小】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)基礎学力の定着に向けて、粘り強く学習に取り組むと共に自ら学習を調整する資質・能力 (2)根拠をもって自分の考えを表現したり、よりよく課題を解決しようとする資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)～①国語・算数のモジュールの時間を各30回程度設定し、個に応じて「学習ソフト」や書き込み式ドリル等を用いて、繰り返し学習に取り組む。【週に2回】 (1)～②何ができたのか、どうしてできたのか等、児童自らが学びを振り返ることができるようにする。【毎時間】 (2)探求的な学びの充実に向け、「課題の設定～まとめ・表現」のスパイラルを繰り返す学習過程を意識しながら、児童が根拠をもって学習に取り組めるようにする。その際、「学びのコンパス」の4つの柱を意識する。【各単元】

ざらざら(構円)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	調査の振り返り(4月)	学力向上策の実施
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	結果提供(7月)	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③調査問題を活用した授業

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策の見直し
↓		
学力向上策の 見直し		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所